辻潤は尻振ヨイヤサやオボコ節をやる。
善之助は勅語を暗誦したり、卒業式の唱歌を唄つたり講釋を初めたり、ニガニガしく騒ぐ。
電燈が灯く頃までに、ウニや海苔の罐詰も食べ盡し、牛肉やマテ貝や鰹の罐詰も食べ盡し、新聞紙に包んで、懐ろへ入れて買つて歸つたこうこで酒を飲む。
所へ近所の高橋勝也がやつて來て、御馳走を持つて來る。
アルミニユームの鍋に一杯豚汁見たいなスープなのだ。
千家元麿が此の頃甚く淫を好んで、朝から晩まで猥談をやつてゐる噂などが出る。
無車も苦茶々々何處かに若い女を圍つてゐるとか、生馬の梅毒が癒つたとか、ライオン使ひの俊孝の話なども出た。
しかし水が飲みたくて、みんな一人宛外の井戸へ行つて飲んで來る。
寒いのも忘れられて何處かへ出掛け樣と言ふ事になつた。
吉祥寺の停車場まで、雲の中を轉ぶ樣に歩るいてそれから電車に乘る。
布施は新吉が酒を飲んでも昂奮しないので、駄目だと言ふよな事を言つた。